

平成30年8月24日付【建設工業新聞】
 <時流自流>水コン協 会長 村上 雅亮氏
 地域の発展に寄与する法人
 会員が力発揮できる環境整備

時流自流

4月に一般社団法人から公益社団法人へ移行した。「上下水道コンサルタントの社会的な地位向上が会員のモチベーションを高め、地域の発展に寄与する」と強調。公益性に主眼を置いた協会活動の展開に向け「インフラの更新・維持管理、災害対応などで会員が力を発揮できる環境整備に注力する」と意気込みを語る。

——市場環境をどうみる
 「上下水道市場は施設の建設から維持管理・運営に需要がシフトしている。事業体のニーズも多様化する中で、コンサルタントに期待される役割も変わってきている。一方でコンサルタント業界は人手不足が急速に進んでいる。デジタル技術を活用して事業の効率を図ることが問われている。ここへの対応が重要になる」と考えている。

——注力分野は。
 「業務領域の拡大、多様な官民協働の促進などに重

点的に取り組む。会員企業は上下水道事業の調査・計画・設計の仕事を通じて川上から全体を把握してきて。建設業の中で最も事業体に近い立場からものを考えられる。これからは地域によって管路と処理場、下水と水道など多様な組み合わせの発注が考えられる。隣の自治体同士が共同で事業を行う形も出てくる。官民で一緒に業務の効率化を図ることが流れるの中で、公益法人となった当協会が多様な事業のコーディネーター役を担えると思う。ここを協会としてアピールした

全国上下水道コンサルタント協会 会長 村上 雅亮氏



「もつひとつは上下水道コンサルタントの社会的な地位向上に取り組む。国や事業体には事業環境の改善を求めて意見交換の機会を増やし、積極的に提案し、コンサルタントの活躍の場を広げる。災害支援はコンサルタントの社会的信頼を高める。コンサル業界も世代交代が進み、災害時に対応できる人材が減っている。このため今秋に東京、大阪の2カ所ですべて「災害時支援者育成講習会」を開く」

——生産性向上の支援策
 「BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）/CIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）の普及に取り組みたい。BIM/CIMの普及は品質確保や生産性向上に寄与するだけでなく、データを維持管理分野に活用できる。こうした取り組みが業界のイメージアップとなり人材確保につながるだろう。上下水道分野のBIM/CIMは建築、土木はもちろん、機械や電気など設備も組み合わせる。このため関連団体との連携も重要になる」

——人材の確保・育成策

地域の発展に寄与する法人

会員が力発揮できる環境整備

「協会として6月と10月に会員各社で一斉ノ一残業デーに取り組んでいる。納期を平準化する取り組みも大事だ。国や自治体にこれからも要望する。会員各社もテレワークの導入など多様な働き方を実現する改革を進め、ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）の取り組みを強めている。昨年、一昨年と会員各社にアンケートを行い、働き方改革の取り組みなどを聞いた。この結果を基に今年事例集を作成する」

（むらかみ・まさあき）1975年早大理工学部卒、日本上下水道設計（現NJS）入社。2004年取締役、12年常務、14年から社長。愛知県出身、65歳。座右の銘は「照顧脚下」。6月14日の総会で全国上下水道コンサルタント協会会長に就任。